

## 情報通知

**研究課題名：**タイトル：亜急性期脳卒中患者における自覚的視性垂直位の経時的変化と歩行自立度との関連

**研究の実施体制：**谷友太（責任者）、原澤理周（沼田脳神経外科循環器科病院 理学療法士）、西須一紗（沼田脳神経外科循環器科病院 理学療法士）、柿間洋信（沼田脳神経外科循環器科病院 理学療法士）、五十嵐達也（文京学院大学 助教）

**研究の目的：**脳卒中後には、手足の麻痺だけでなく、身体の傾きや重力方向を正しく認識する能力が低下することがあります。この能力は「自覚的視性垂直位（Subjective Visual Vertical：SVV）」と呼ばれ、姿勢の安定や歩行能力に関係すると考えられています。近年、SVVの異常とバランス能力や歩行能力との関連が報告されていますが、入院中にSVVがどのように変化するのか、また、その変化が歩行能力の回復とどのように関連するのかについては十分に明らかになっていません。

本研究では、脳卒中患者さんを対象として、入院中のSVVの変化を調査するとともに、SVVの変化と歩行自立度の変化との関連を明らかにすることを目的とします。これにより、脳卒中後の歩行能力の回復過程をより深く理解し、リハビリテーション評価や治療方針の検討に役立つ知見を得ることを目指します。

**研究の対象：**2023年12月1日から2025年10月31日の間に沼田脳神経外科循環器科病院に入院し、リハビリテーションを実施した脳卒中患者様で、入院中にSVVを2回以上測定された患者様を対象とします。当院の診療録およびデータベースの情報を後方視的に収集し解析を行います。対象となることを希望されない方は、最下部の連絡先までご相談ください。

**収集する情報：**年齢、性別、身長、体重、疾患名、入院期間、既往歴、転帰、SVV、Functional Ambulation Categories (FAC: 歩行自立度の評価指標)など

**情報の保管および破棄、情報公開の方法：**データ解析の際には個人を特定できる情報は含めません。各データはID番号を付与し、対応表により管理します。データファイルはパスワードを設定した上で、施錠可能な場所に保管されたパソコンで管理します。データの移動はパスワード設定可能な記録媒体を用いて行います。研究終了後は、電子データを復元不可能な形で完全に削除します。研究結果は学会発表や論文として公表されることがありますが、個人が特定されることはありません。

**見込まれる医学上の貢献：**本研究により、脳卒中患者におけるSVVの経時的変化や、その変化と歩行自立度の回復との関連が明らかになることが期待されます。これにより、脳卒中後の歩行能力回復における垂直認識の重要性について新たな知見が得られる可能性があります。

また、SVV評価の臨床的有用性が示されることで、歩行能力の予後予測やリハビリテーション効果の判

定に活用できる可能性があります。さらに、垂直認識障害に着目した評価や介入の重要性が示されることで、脳卒中患者に対するより効果的なリハビリテーション戦略の構築に寄与することが期待されます。

**研究に関する問い合わせ先：**

群馬県沼田市栄町8番地、0278-22-5052 (内線5410)

沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション課

担当者:谷友太 (責任者)